

就学前教育の充実に向けて

2018年2月28日（水）

奈良教育大学 横山 真貴子

(yokoyama@nara-edu.ac.jp)

1. 日本の幼児教育について

- (1) 幼児教育の基本
- (2) 幼児教育において重視する項目
- (3) 保育者の役割
- (4) 幼児教育の課題

2. 幼児教育の現状

- (1) DVD視聴 『新記録と涙』
： 5歳児後半の長縄跳びの遊び
- (2) 解説

3. まとめ

1. 日本の幼児教育について（1）幼児教育の基本

- 生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの。

- 幼児期の特性を踏まえ、

非認知的能力

環境を通して行うものであることを基本とする。環境

このため教師は、幼児との信頼関係を十分に築き、幼児が

身近な環境に主体的に関わり、

主体性

身体性

環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、

試行錯誤したり、考えたりするようになる 学び

幼児期の教育における見方・考え方を生かし、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるものとする。

●幼児教育の効果：ペリー就学前計画（Perry Preschool Project）

● ペリー就学前計画（Perry Preschool Project）

● ミシガン州の教育的リスクのあるアフリカ系アメリカ人（123人）の家庭への介入実験（1962-1967）

● **実験群**：平日2.5時間の子ども（3歳児）への教育
週末1.5時間の家庭訪問での家庭への教育

● 対照群

● 40歳代まで縦断調査

- **犯罪率、年収、持ち家率**などで長期的な差
- **IQの差は10歳時点（小学校2年生）で消失**

➡ 認知的能力の差はない？

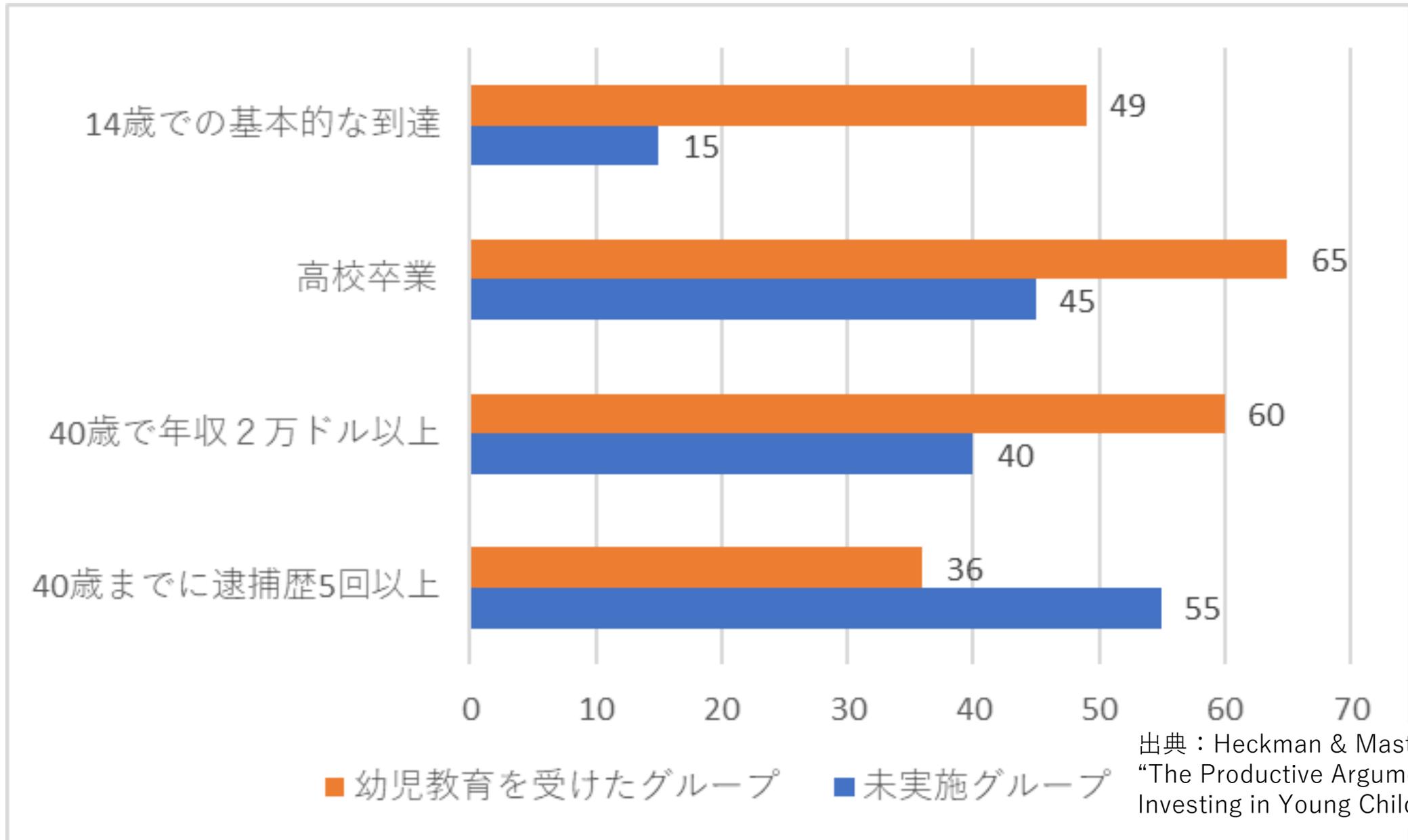
➡ **非認知的能力**への注目

忍耐力

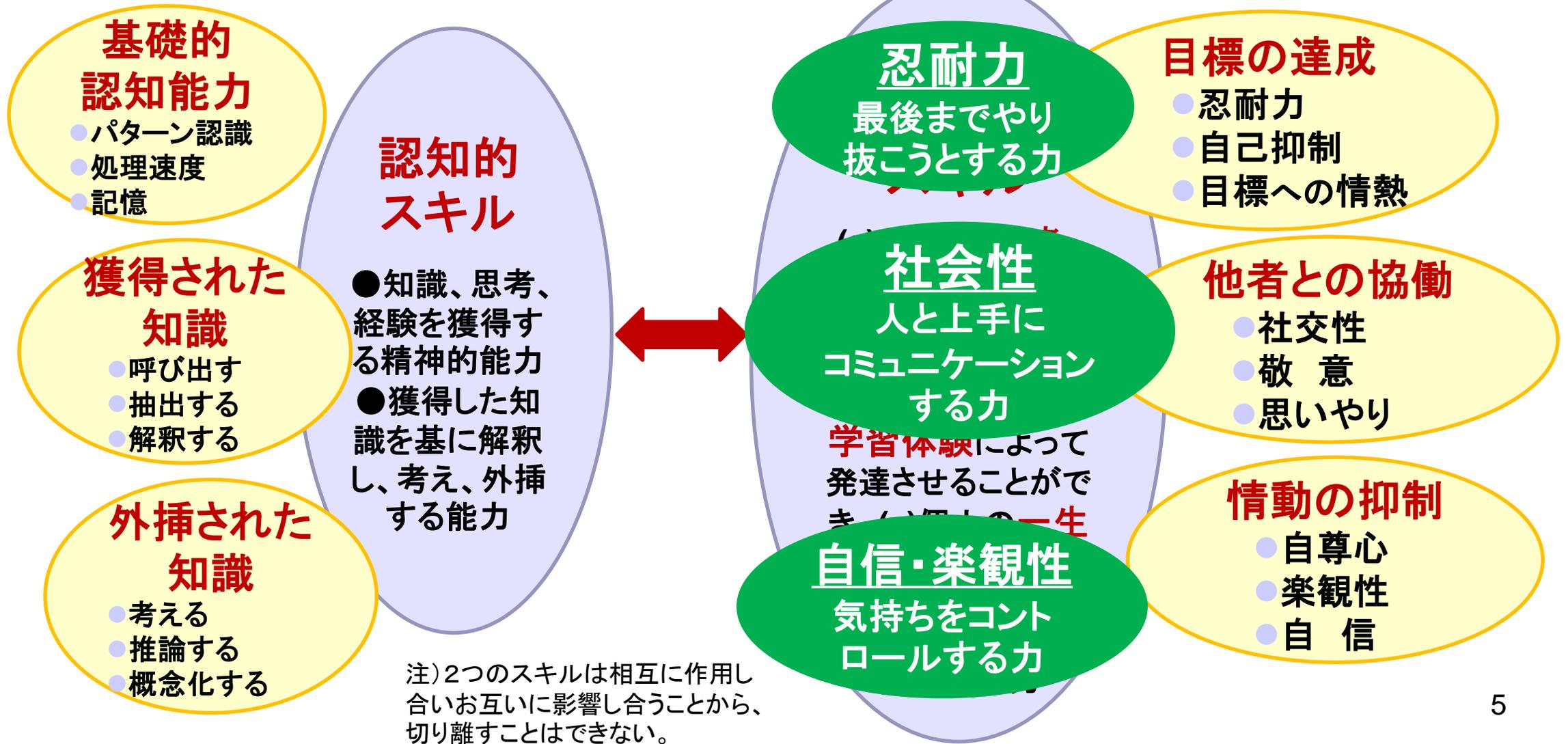
社会性

自信・楽観性

幼児教育の効果：ペリー就学前計画 (Perry Preschool Project)



●非認知的能力：認知的スキル、社会情動（非認知）的スキルの フレームワーク（OECD,2015）



(2) 幼児教育において重視する事項

- 1 幼児の発達には、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また、幼児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、**幼児一人一人**の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること。

一人
一人

信頼関係

個の
育ち

- 2 幼児は**安定した情緒**の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な**体験**を得ていくものであることを考慮して、**幼児の主体的な活動**を促し、**幼児期にふさわしい生活**が展開されるようにすること。

生活

主体性

直接体験

友達

- 3 幼児の**自発的な活動としての遊び**は、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、**遊びを通しての指導**を中心として「教育のねらい」が**総合的**に達成されるようにすること。

遊び

総合的

(3) 幼児教育における保育者の役割

教師は、幼児の**主体的な活動**が確保されるよう
幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、**子ども理解**
計画的に環境を構成しなければならない。

この場合において、教師は、幼児と人やものとの関わり
が重要であることを踏まえ、教材を工夫し、物的・空間的
環境を構成しなければならない。**個の育ち**

また、幼児一人一人の活動の場面に応じて、**様々な役割**
を果たし、その活動を豊かにしなければならない。

**幼児1人1人の理解を基に、
個に応じた教育環境・援助の構築**

(4) 幼児教育の課題

●幼児教育の質の向上

プロセスの質の向上

= 幼児理解に基づく
即興的な援助



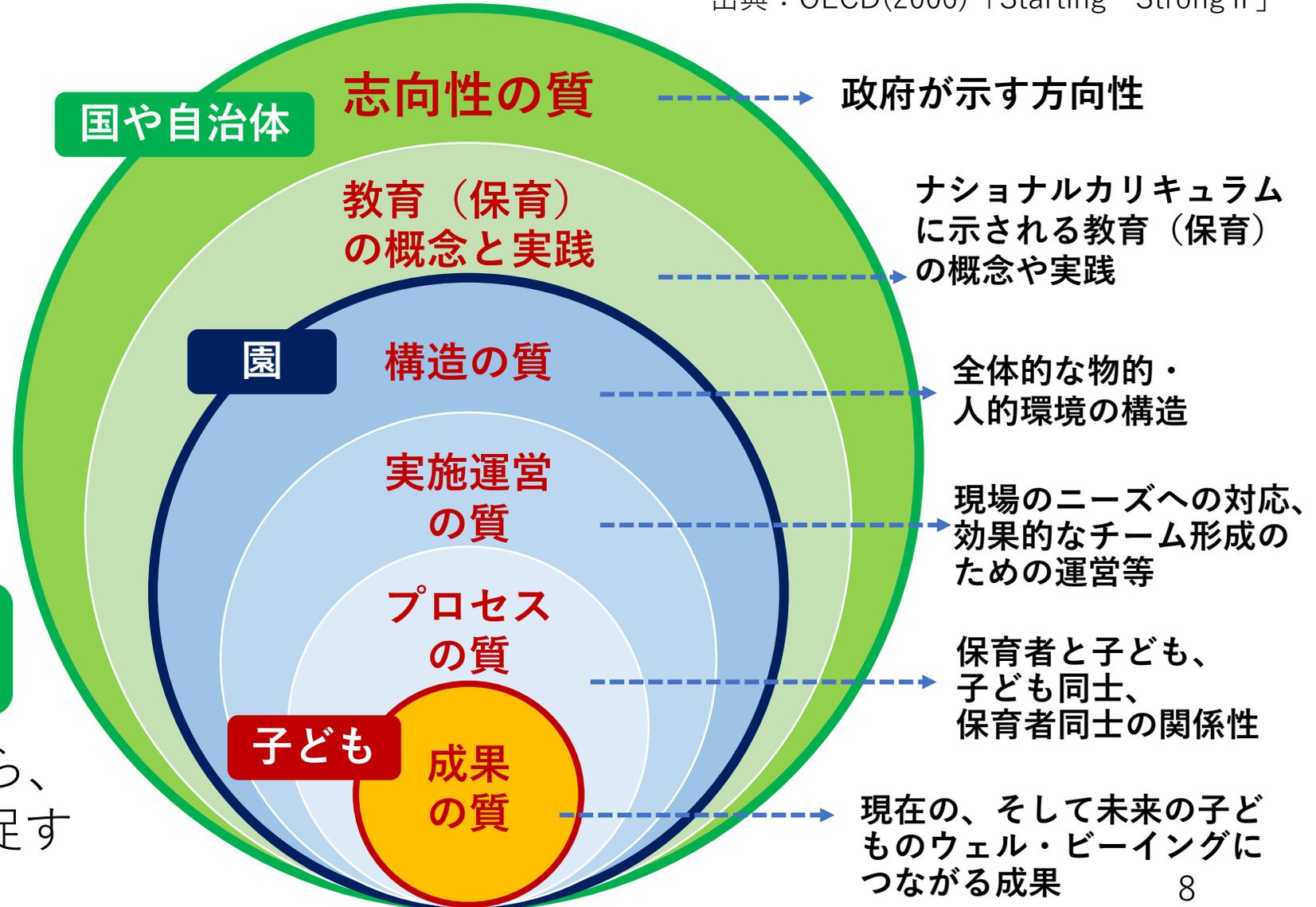
保育者の資質・能力

= 専門性の向上

奈良県版就学前教育 プログラム

- ・ 援助の具体を例示しながら、
保育者自らの力量形成を促す

出典：OECD(2006)「Starting Strong II」



2. 幼児教育の現状 (1) DVD視聴

● 「かえで幼稚園」 (広島県廿日市市 私立幼稚園) の実践

「あそんでぼくらは人間になる」

『映像で見る主体的な遊びで育つ子ども あそんでぼくらは人間になる』 (エイデル研究所)
(2016) 大豆生田啓友 (編著)

「新記録と涙」 (7分程度)

- ・ 5歳児の冬、長縄跳びへの挑戦をめぐる子どもたちの育ち

● 子どもたちの姿：何が育っているのか？

● 保育者の姿：どのような教育的関わりをしているのか？

- ・ 環境構成
- ・ 援助

(2) 解説：①子どもの育ち

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・
規範意識
の芽生え

社会生活
との
関わり

思考力
の芽生
え

自然との
関わり・
生命尊重

数量や図形、
標識や文字
などへの
関心・感覚

言葉に
よる
伝え合い

豊かな
感性と
表現

(2) 解説：②保育者の教育的関わり

●環境構成

もの・空間・時間

●保育者の援助

一人一人のやりたいことの実現

⇔

協同性

一人一人への教育のねらい

⇔

学級の教育のねらい

↓

一人一人への指導・援助

↓

学級へ指導・援助

個の育ち

1人1人の幼児理解に基づく、
教育環境・援助の構築

集団の育ち

まとめ

●幼児教育 生涯にわたる人格形成の基礎

→ 経済的な投資効果も高い

子どもの主体的な
遊びの中での学び

個の充実
から

●幼児教育の質の向上 = 保育者の資質・能力の向上

- ・自治体
- ・園

で質の向上を支える仕組みの構築

